

第二章 「登戸研究所」 掘り起こし運動



1 川崎市民による 「登戸研究所」掘り起こし運動

川崎市は全国の政令指定都市にさきがけ「核兵器廃絶平和都市宣言」を出し、1985（昭和60）年には、行政が主導し、市民自身が企画委員となって運営する「平和学級」がスタートします。これは全国でも例をみない平和学習の取り組みでした。平和学級では市民の「地域の戦争の記憶を知りたい」という思いから、市内各地で掘り起こし運動が展開されました。その中で、1987年度中原平和教育学級が、1981年に放映された「歴史への招待」で地域にこのような歴史があったことに衝撃を受け、学習のテーマに登戸研究所を選びました。

1988年2月、生田キャンパスで現地見学会が開催され多くの市民が集まる中、元登戸研究所勤務員である井上三郎さんに市民は出会います。井上さんから、「登研会」という登戸研究所OBが集まる会があることを告げられた市民は、聞き取り調査を申し出ましたが、断られてしまいました。しかし、井上さん自身はその後平和学級の聞き取り調査に応じ、交流のある元登戸研究所勤務員を市民に紹介しました。その中で、井上さんより「登研会名簿」を平和学級は託されます。名簿を見てみると、多摩区や麻生区など川崎市内にまだ多くの元登戸研究所勤務員が居住していることがわかりました。

平和学級に所属していた高校生メンバーの一人から、名簿を基に元勤務員にあててアンケートを実施しよう！との声があがり、アンケートが実施されました。その中で、当時の文書約900点が綴られた第一級資料『雑書綴』が提供されることになったのです。



図9 中原平和教育学級で元勤務員と調査する市民
1988（昭和53）年7月撮影

昭和62年度 中原平和教育学級


戦争とは何か

～今ふりかえる戦争への道～

太平洋戦争って、第二次世界大戦って、なに？
 なぜ日本は戦争をおこしてしまったの？
 どうしてみんな戦争に協力していたの？
 どうすれば戦争の無い社会を作れるの？

◎期 日
 昭和63年 1月23日(土)～3月12日(土)
 毎週土曜日 午後2時～4時30分 全9回

◎主 催 川崎市教育委員会
 ◎会 場 川崎市中原市民館(武蔵小杉駅から徒歩5分)
 ◎対 象 市内在住・在勤・在学等の15歳以上の方 30名
 ◎受 付 1月9日(土)午前10時から受け付けます。(電話可)
 ◎問い合わせ 川崎市中原区小杉町3-262-1
 川崎市中原市民館
 ☎044-722-7171



中原平和教育学級で一緒に考えてみませんか？
 この学級では、国家が戦争へと突入していく過程を歴史の中でふりかえり、戦争の原因や戦争へ至るメカニズム、そのときの国民の意識などを明らかにしていくことで戦争の本質に迫っていきたいと思います。講義だけでなく意見交換の時間を多く取ることで、あの戦争は我々にとって何だったのか考え合っていければと思います。

回	月 日	学 習 課 題	学 習 内 容	講 師
1	1.23 (土)	戦争とは何か、なぜ日本は戦争をす ることになったのか	第二次世界大戦とは何だったか～世界的にみて～	専修大学教授 土井正典
2	1.30 (土)	第二次世界大戦への道① ～歴史をふりかえて～		法政二高教諭 吉村徳蔵
3	2.6 (土)	国民はなぜ戦争に 加担していったか	軍の根のファシズムを問う ～我々の心に潜むもの～	中央大学助教授 吉見義明
4	2.13 (土)	第二次世界大戦への道② ～教育をふりかえて～		法政二高教諭 吉村徳蔵
5	2.20 (土)	戦争は何をもたら したか～太平洋戦 争の理念と現実～	川崎と戦争～登戸研究所に 見る戦争の狂気～(見学)	法政二高教諭 渡辺賢二
6	2.27 (土)	「太平洋戦争」とは何だっ たか～アジアから見ると		法政二高教諭 木村宏一郎
7	3.5 (土)	戦争へと突入して いくメカニズムを 考える	戦争の真の原因は～経済と の関係で見てみよう～	法政大学教授 鷲見友好
8	3.12 (土)	さぐり、現代状況 を考察	国民の知る権利や言論の自 由の意義と現在の状況	横浜弁護士会国検法 対策本部 間部俊明


*この学習プログラムは、昨年度の学級生のご意見を参考に作りました。

中原平和教育学級

戦争とは何か

～川崎に見る戦争の爪跡～

平和だといわれる現在でも、戦争の裏側の事実はまだ私たちの目に明らかになりません。そして、私たちの町川崎にもその戦争の爪跡が、ひっそりと最後の姿をとどめています。この学級では川崎における戦争の爪跡を具体的に探りながら戦争の本質とは何か、真の平和への道とは何かを皆さんと一緒に考えます。お気軽にご参加ください。



NO	月・日	テ ー マ	学 習 内 容	講 師
1	1.21(土)	我が町にみる戦争の爪跡(1)	いま、なぜ戦争を問うのか	法政二高教諭 木村宏一郎
2	1.28(土)		「旧陸軍登戸研究所」とは そもそも何が行われていたのか	法政二高教諭 渡辺賢二
3	2.4(土)		「旧陸軍登戸研究所」に見る 戦争の狂気	登戸研究所 元所員
4	2.18(土)	戦争のもう一つの 姿 ～謀略戦の実態～	東京裁判とは何だったのか ～生き伸びていく死の商人～	立教大学教授 栗屋 憲太郎
5	2.25(土)		謀略戦とは何か その実態と構造を探る	作 家 大野 達三
6	3.4(土)	現代の軍事開発の 構造	最先端技術と軍事の関係	軍事評論家 前田 哲男
7	3.11(土)	我が町にみる戦争 の爪跡(2)	ベトナム戦争と日本 米軍基地の工場	木村 宏一郎
8	3.18(土)	平和を守り、創る ために	憲法から学ぶ 国民の「知る権利」の意義	青山学院教授 清水 英夫
9	予定 3.21(火祝)	～私たちの役割 とは～	米軍基地の実態 [厚木基地見学バスツアー]	多摩平和教育学 級と合同企画

受付 1月14日(土) 午前10時から中原市民館で(電話可)
 (定員 15歳以上の方 40名)

日時 1月21日～3月18日 毎週土曜日 午後2時～4時30分
 3月21日(火・祝) 時間未定 特別講座予定 全9回

会場 川崎市中原市民館(武蔵小杉駅 徒歩4分)他

受講料 無料 [ただし、見学にかかる費用(交通費)は実費自己負担]

問合せ 川崎市中原市民館 ☎722-7171

主催 川崎市教育委員会
 (企画協力 中原平和教育学級企画委員会)

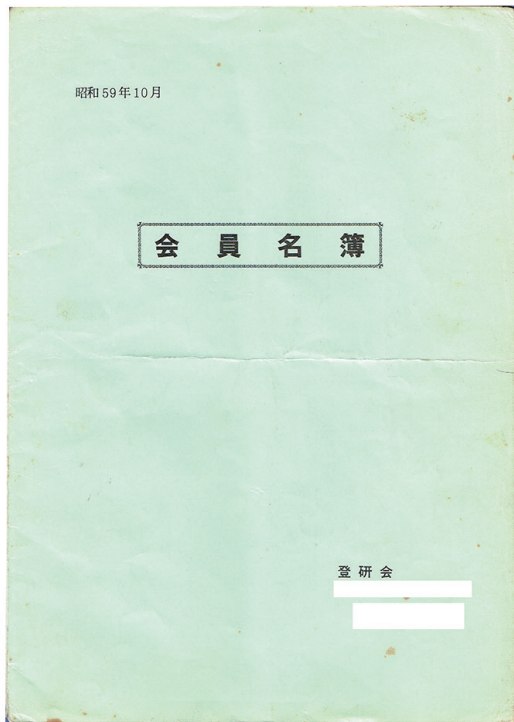
中原平和教育学級 募集チラシ

1987年度(上) 1988年度(左)

1988(昭和63)年/1989(平成元)年 | 中原平和教育学級 | 個人寄贈

1987年度の中原平和教育学級で登戸研究所が取り上げられた。戦争の被害面だけではなく、加害面も伝える重要な存在が川崎市内にあることを知った市民は、1988年度は登戸研究所の掘り起こしをしていくことを決めた。

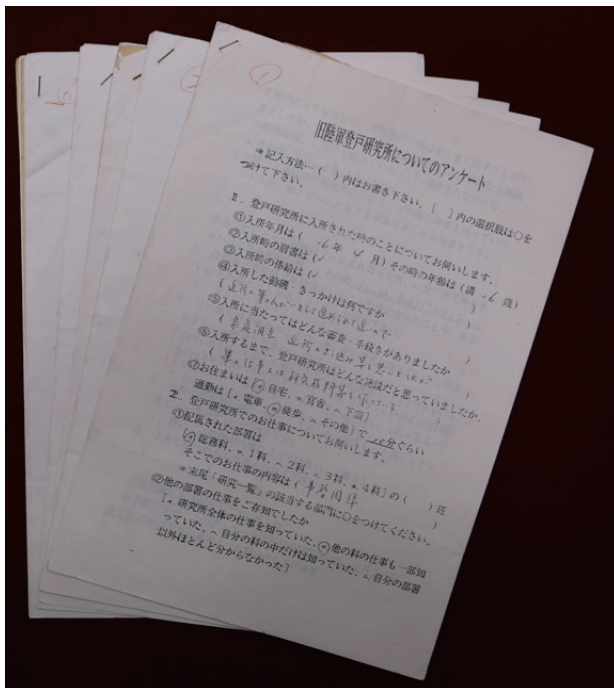




登研会会員名簿 昭和59年10月版

1984 (昭和54) 年10月 | 登研会 | 個人寄贈

元勤務員だった井上三郎から中原平和教育学級に渡された名簿。井上は登研会世話人の一人であり、OBの消息を訪ね名簿作成にも関わった人物でもある。



元陸軍登戸研究所についての アンケート (回答)

1989 (平成元) 年 | 中原平和教育学級 | 渡辺賢二氏寄贈

井上三郎からもたらされた「登研会会員名簿」を基に中原平和教育学級が川崎市内の元勤務員に実施したアンケート。



2 長野と川崎の高校生による 「登戸研究所」掘り起こし運動

中原平和教育学級のメンバーの一人であった渡辺賢二は、法政大学第二高等学校（川崎市中原区）の教諭でもありました。1989（平成元）年、文化祭のテーマを生物化学兵器と決めた高校生に、渡辺は登戸研究所のことを話しました。大人たちも解明できていない登戸研究所の活動を、自分たちが解明できたら面白いのではないかと興味を持った高校生は、市民と一緒に登戸研究所の掘り起こしをしていくこととなります。同時期、登戸研究所の疎開先であった長野県

伊那地方でも、長野県赤穂高等学校（駒ヶ根市）の「平和ゼミナール」が文化祭の発表テーマを登戸研究所に決めます。

赤穂高校生は地域に住み続けている元所員らを訪ね歩き、当初は話そうとしなかった元所員と人間関係を築いていく中で、登戸研究所の活動を明らかにします。それまで大人たちには会おうとしなかった伴繁雄も、高校生たちが自らの手で登戸研究所の活動を明らかにしたことを「よく調べた」と評価し、自らの経験を語るようになります。

二つの地域で始まった高校生による掘り起こし運動は交流が行われ、1991年には、両校の活動がまとめた『高校生が追う陸軍登戸研究所』（教育史料出版会）が刊行されました。

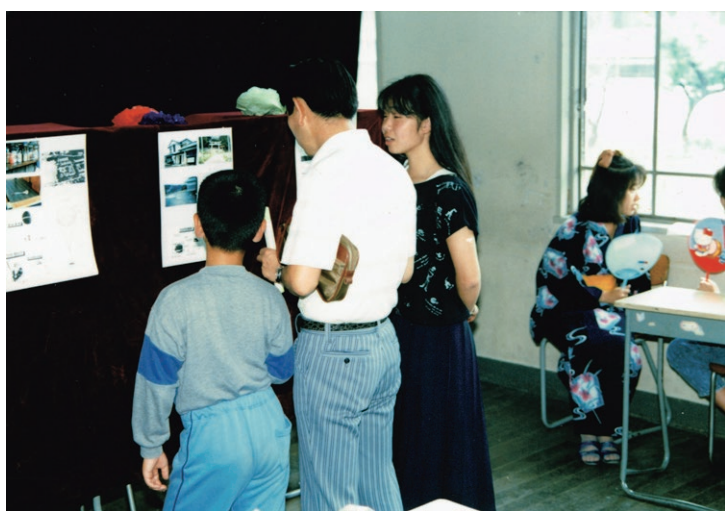


図10 文化祭で発表する長野県赤穂高等学校生徒
1989（平成元）年撮影（撮影者：木下健蔵氏）



図11 高校生の聞き取りに応じる伴繁雄
1989（平成元）年撮影（撮影者：木下健蔵氏）

